

小児救急医療の充実に向けた取り組みについて

平成17年12月9日
熊本県地域医療推進課

1. 取り組み状況

本県の休日、夜間における小児救急医療は、小児科医の偏在等から、熊本市を除く多くの地域において不十分な状況にある。 → 別添「小児救急体制図」参照

そのため、国庫補助事業を活用して圏域の実情に応じた整備を図ることとし、これまで下記の取り組みを実施。

(1) 小児初期救急医療体制の整備

①小児初期救急医療推進事業（H14～H16）

- ・球磨圏域の一部市町村域において実施し、小児科医による休日昼間の小児初期救急医療体制を整備。

【成果】（H17～）

- ・補助事業終了後も、市町村事業として、対象を圏域全域に広げ体制を再構築。

②小児救急地域医師研修事業（H17～）

- ・有明圏域、鹿本圏域において、それぞれ20～30名の内科医等を対象に実施。

【成果】

- ・鹿本圏域：新たに準夜間帯の小児初期救急医療体制を構築。
- ・有明圏域：既存の準夜間帯の小児初期救急医療体制に参加する内科医等の増強及び診療レベルの向上。

(2) 小児2次救急医療体制の整備

○小児救急医療拠点病院運営事業（H14～）

- ・現在3病院を整備し、11圏域のうち6圏域をカバー

開始年度	病院名	対象圏域
平成14年度	天草郡市医師会立 天草地域医療センター	天草
平成15年度	熊本市医師会立 熊本地域医療センター	熊本、宇城、上益城
〃	熊本赤十字病院	熊本、菊池、阿蘇

(3) 小児救急医療の環境整備

○小児救急電話相談事業の実施（H17～）

○実施方法

- ・（社）熊本県医師会に委託して実施（県医師会から熊本市医師会に再委託）。
- ・相談電話は、小児救急医療拠点病院である熊本市医師会立熊本地域医療センタ

一に置き、小児科医のバックアップを受ける。

・電話番号：# 8 0 0 0 を利用（携帯・ダイヤル回線からは 096-364-9999）

○事業開始日

平成 1 7 年 6 月 1 日

○相談体制

①相談対応日・時間：毎日、準夜帯 4 時間（1 9 : 0 0 ~ 2 3 : 0 0）

②相談員：看護師（必要に応じて小児科医）

【これまでの実績】

- ・平成 1 7 年 1 0 月 3 1 日までの 5 ヶ月間の相談件数は、1,732 件であり、1 日当たりの平均相談件数は約 11.4 件。
- ・子どもの年齢別相談件数の割合は、1 歳から 3 歳が 49.8% と過半数を占め、次いで 0 歳代が 30.4% であり、3 歳以下が全体の約 8 割を占めている。
- ・相談件数のうち、8 割超が即時の対応が求められる病状ではなかった。

→ [詳細は別添「相談実績」参照](#)

2. 熊本方式について

熊本方式とは…

熊本市医師会立熊本地域医療センターで実施している小児初期救急医療体制

○病院としての機能

- ・小児初期救急：熊本市休日夜間急患センター（熊本市委託事業）
- ・小児 2 次救急：小児救急医療拠点病院（熊本県補助事業）
- ・一般 2 次救急：病院群輪番制病院（市町村補助事業）
- ・診療報酬上の「地域連携小児夜間休日診療料」を算定。

○熊本方式

- ・休日夜間急患センターの体制は、昭和 5 6 年から 2 0 年間以上、勤務小児科医と開業小児医、大学病院小児科医の連携による小児科医のシフトをしいており、一般的に「熊本方式」と呼ばれている。
- ・これは、平日の準夜帯を勤務医又は開業医が、深夜から朝までを大学病院の医師が同センターにおいて勤務するもの。これにより 2 4 時間の対応を行っている。

■ 平日			
8:00	22:00	24:00	8:00
勤務医		開業小児科医	大学小児科医 (休日前夜は開業小児科医)
■ 休日			
8:00	18:00	23:00	8:00
開業小児科医 または大学小児科医		開業小児科医	大学小児科医 または勤務医

○出務開業医師の状況

- ・開業小児科医の参加人数は31人、70歳以上の高齢者を除き、熊本市内及び近郊の開業小児科医はほぼ全員参加しており、概ね月1回程度の出務。
- ・平均年齢51.5歳、女性医師7人、熊本市外からの参加8人。

○小児救急患者数等

- ・平成元年は年間12,542件、平成16年度は21,741件であり1.73倍ほど患者が増加している。
- ・ここ3年間は、約22,000件前後で推移。
- ・平成16年度の小児救急患者の内訳は下記のとおり。

年度	患者内訳	患者数
平成16年度	①休日及び夜間患者数(内科・小児科・外科)	37,701
	②小児科患者数 (①の内数)	21,741
	小児科入院患者数 (②の内数)	913
	準夜帯(18～22時)の小児科患者数 (②の内数)	6,879
	深夜帯(22～翌8時)の小児科患者数 (②の内数)	11,189
	夜間帯(18～翌8時)の小児科患者数 (②の内数)	18,068
	全体のうち小児科患者の占める割合	57.7%
	小児科患者のうち入院の占める割合	4.2%
	小児科患者のうち準夜帯の占める割合	31.6%
	小児科患者のうち深夜帯の占める割合	51.5%
小児科患者のうち夜間帯の占める割合	83.1%	

○熊本方式のメリット

- ・開業医が手に負えないときは、病院常勤医がバックアップすることによる安心感。
- ・2次救急医療機能も併せ持つことで、入院や手術にも対応。
- ・開業小児科医にとっては、多くの症例に接することによる技量向上。
- ・病院常勤医、開業小児科医、大学病院小児科医による症例検討会等による診療レベルの向上。
- ・開業小児科医は、当番日以外は夜間診療から解放されることによる負担軽減。
- ・大学病院小児科医にとっては、地域医療に貢献できる場の確保。

3. 課題

(1) 小児科医の不足・偏在

【現状】

- ・ 本県の小児科医師数は184人
(病院常勤小児科医及び小児科主標榜診療所の小児科医)
- ・ うち半数以上の97人が熊本市に集中

平成17年9月1日現在

二次医療圏	人口	病院小児科医 常勤	小児科診療所 主標榜	小児科医数計	10万人あたり 小児科医師数	割合
熊 本	670,945	52	45	97	14.46	52.7%
有 明	175,318	3	5	8	4.56	4.3%
鹿 本	89,347	2	2	4	4.48	2.2%
菊 池	163,424	4	9	13	7.95	7.1%
阿 蘇	75,055	1	1	2	2.66	1.1%
上益城	85,775	1	0	1	1.17	0.5%
宇 城	141,670	6	4	10	7.06	5.4%
八 代	150,898	4	8	12	7.95	6.5%
芦 北	56,540	14	3	17	30.07	9.2%
球 磨	102,109	4	5	9	8.81	4.9%
天 草	141,054	8	3	11	7.80	6.0%
計	1,852,135	99	85	184	9.93	100.0%

※小児科医数は「小児救急医療体制の取組状況調査」による

【対策】

- ・ 小児科医以外の他科も含めた医師派遣制度及び体制の構築に向けて、関係者間で協議を進めているところ。

(2) 小児初期救急医療体制の整備

【現状】

- ・ 休日昼間については、在宅当番医制により概ね体制は整備されている。
- ・ 夜間体制については、深夜帯までカバーされているのは熊本市の1圏域のみ。準夜帯のみ対応は3圏域（ただし、内科医等の対応も含み、うち1圏域は週3日のみ対応）。

【対策】

- ・ 小児救急地域医師研修事業を積極的に展開し、初期体制の構築及び補強を実施。

(3) 小児2次救急医療体制の整備

【現状】

- ・ 県下11医療圏のうち、小児救急医療拠点病院でカバーされている圏域は6圏域であり、残りの5圏域での整備が課題。

- ・しかしながら、未整備圏域では小児科医の絶対数が不足しており、現状では小児救急医療拠点病院の整備や小児救急医療支援事業の実施は困難。
- ・現状としては、小児科医常勤の公的病院のオンコール体制によりカバーしている状況。

【対策】

- ・今後、広域連携や集約化等の体制整備について検討。

(4) 小児救急医療の環境整備

【現状】

- ・小児救急電話相談事業の実績からも、夜間の軽症患者の割合が非常に高いことが裏付けられており、更なる受療行動の適正化を図る必要がある。

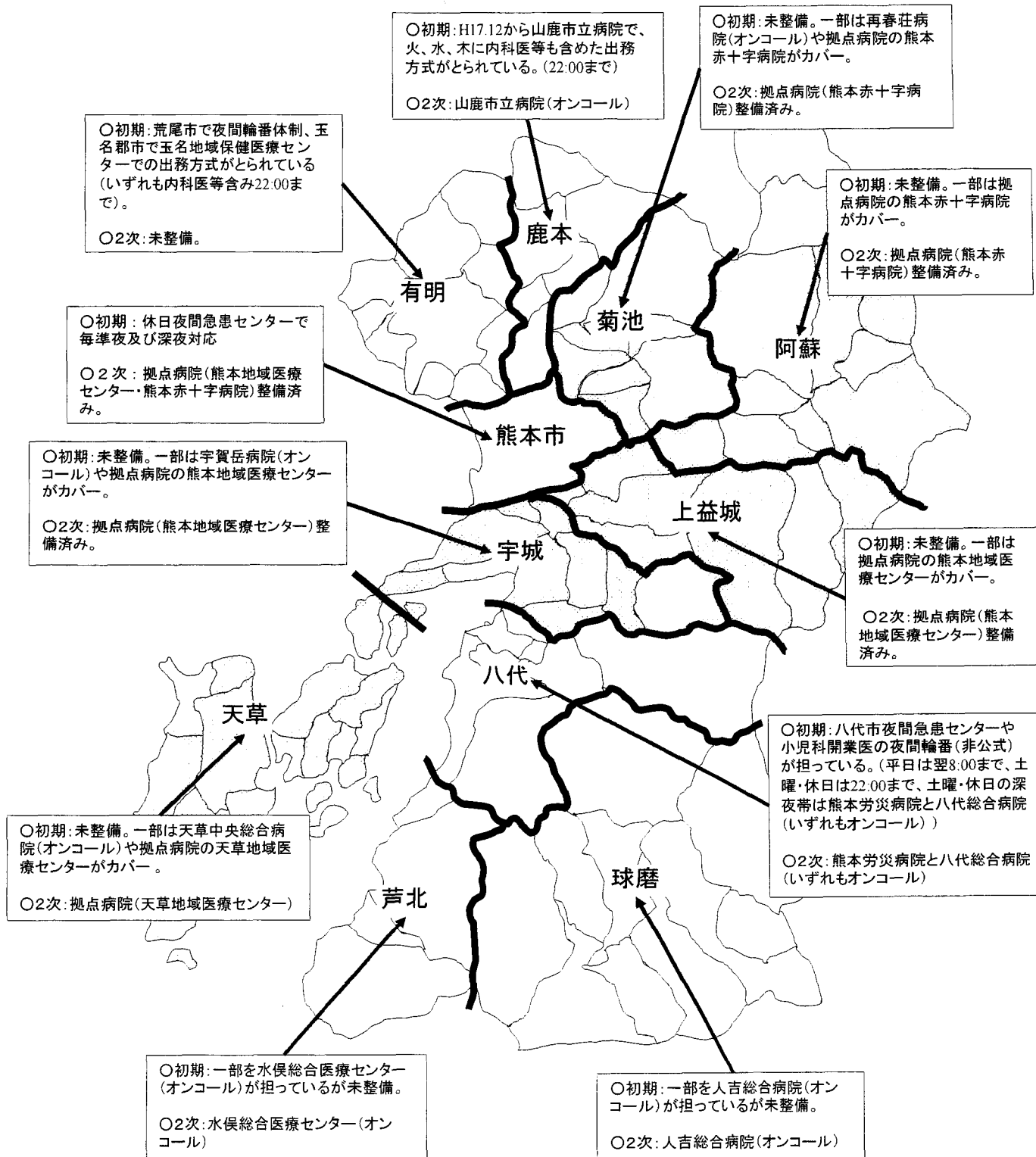
【対策】

- ・小児救急電話相談事業のノウハウ等を活用し、平成18年度において、子どもの保護者を対象とし、子どもの急病時の対応等を解説したガイドブックの配布及び講習会の実施を検討。

小児救急医療体制図(現状) 【初期夜間及び二次】

【注釈】

地図中の網掛け部分は小児救急医療拠点病院のカバー圏域



熊本県小児救急電話相談事業の相談実績等

(平成17年6月～10月期)について

平成17年11月10日
地域医療推進課

1. 相談件数について

- ・平成17年6月1日の開始から、平成17年10月31日までの5ヶ月間の相談件数は、1732件であり、1日当たりの平均相談件数は約11.4件であった(実働日数122日)。
- ・1日の最高の相談件数は23件、最低は3件であった。

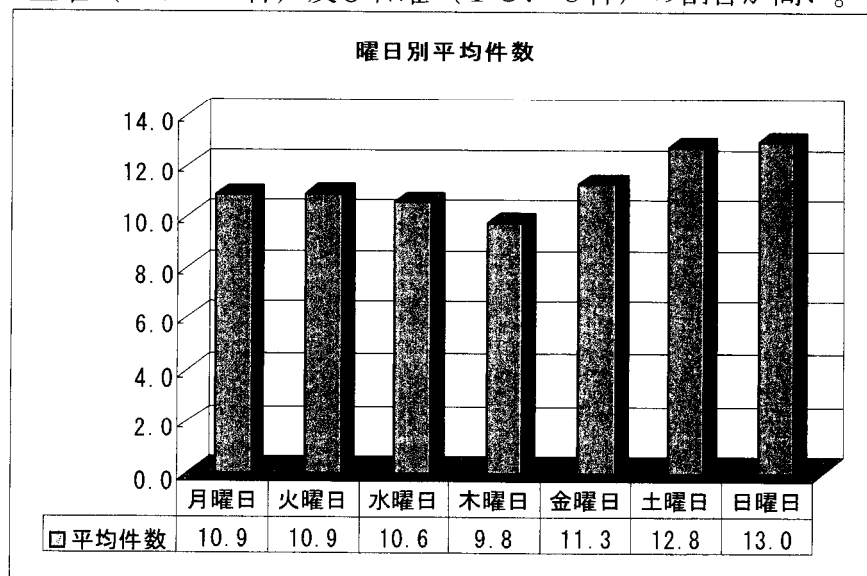
(1) 時間帯別の内訳

- ・受付時間(19時～23時)内における各時間帯別の割合は、19時台が30.6%で最も多く、以後、時間帯を追うごとに減少し、22時台が18.3%。

	相談時間帯				合計	各月 1日平均
	19～20	20～21	21～22	22～23		
6月(30日間)	102	91	89	72	354	11.8
7月(31日間)	106	109	69	69	353	11.4
8月(31日間)	104	85	78	70	337	10.9
9月(30日間)	108	104	82	52	346	11.5
10月(31日間)	110	95	83	54	342	11.0
合計	530	484	401	317	1,732	
割合	30.6%	27.9%	23.2%	18.3%		
1日平均	3.5	3.2	2.6	2.1	11.3	

(2) 曜日別の内訳

- ・曜日別の平均受付件数は、平日でも10件を超える相談があっているが、特に週末の土曜(12.8件)及び日曜(13.0件)の割合が高い。

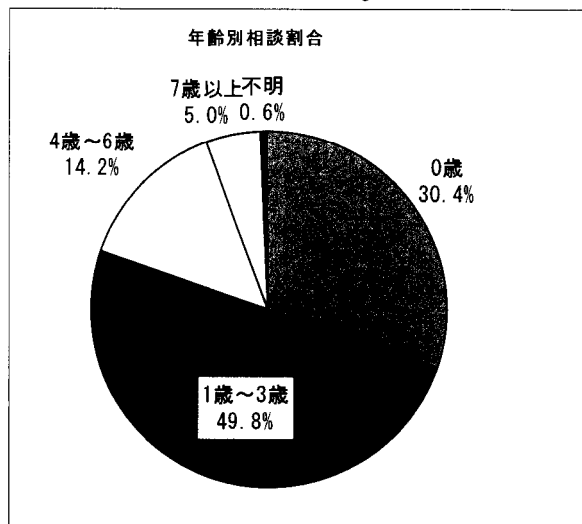


(3) 年齢別の内訳

・子どもの年齢別相談件数の割合は、1歳から3歳が49.8%と過半数を占め、次いで0歳代が30.4%であり、3歳以下が全体の約8割を占めている。

年齢	6月	7月	8月	9月	10月	合計
0歳	104	98	103	97	125	527
1歳～3歳	183	181	160	187	154	865
4歳～6歳	50	48	57	51	41	247
7歳以上	17	26	15	10	19	87
不明	0	2	2	3	3	10
合計	354	355	337	348	342	1,736

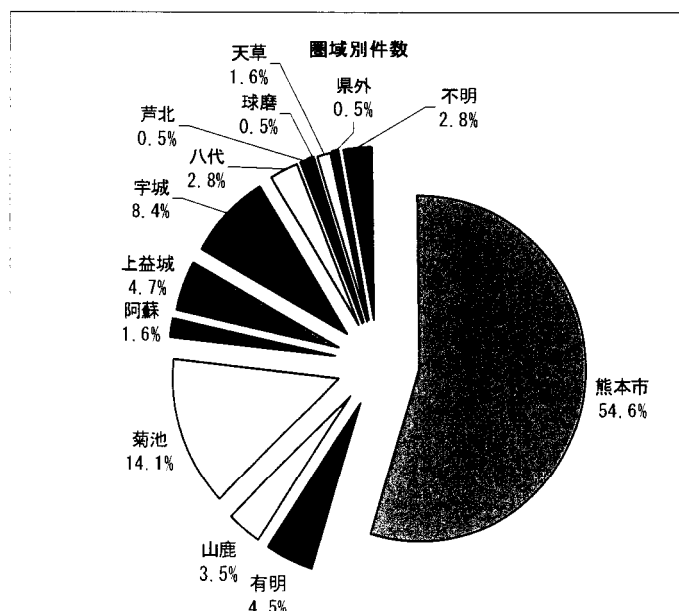
※一件に2人の患児相談があったため総件数とは一致しない。



(4) 圏域別の内訳

・各医療圏域別の相談件数については、熊本市内からの相談が54.6%と半数を超え、以下、菊池、宇城、有明、上益城と熊本市周辺圏域が多くなっている。

圏域	6月	7月	8月	9月	10月	合計
熊本市	198	198	172	175	202	945
有明	15	22	19	14	8	78
山鹿	13	18	13	10	7	61
菊池	40	46	48	58	53	245
阿蘇	9	2	5	7	4	27
上益城	21	13	16	17	15	82
宇城	29	21	35	37	24	146
八代	13	9	11	10	5	48
芦北	0	2	4	1	1	8
球磨	2	2	3	0	1	8
天草	6	6	5	3	7	27
県外	2	2	2	1	2	9
不明	6	12	4	13	13	48
合計	354	353	337	346	342	1,732

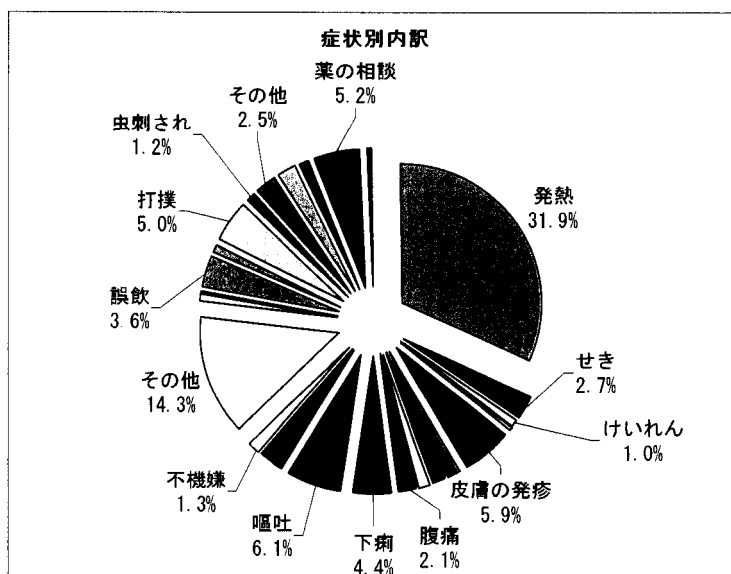
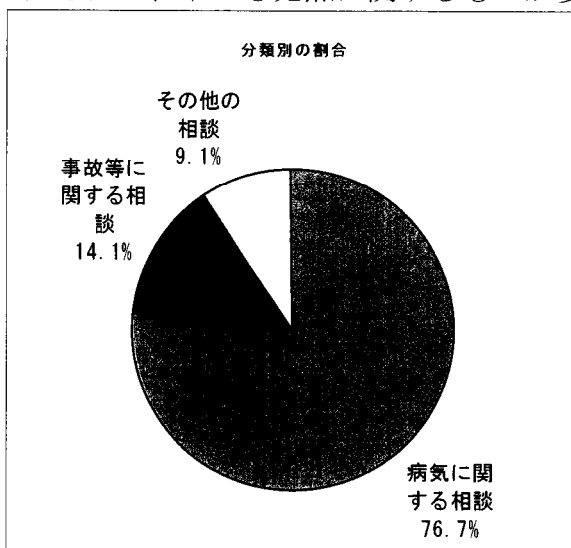


2. 相談内容及び対応について

(1) 相談内容の内訳

・全体のうち、病気に関する相談が約8割を占め、中でも発熱に関するものが多い。

分類	内容	件数
病気に関する相談	発熱	687
	せき	59
	けいれん	21
	呼吸困難	6
	皮膚の発疹	127
	じんましん	27
	排尿痛	1
	頻尿	0
	耳痛	26
	耳漏	3
	頭痛	29
	胸痛	0
	腹痛	46
	下痢	94
	嘔吐	131
	血便	31
	泣き止まない	28
	不機嫌	28
	その他	309
小計		1,653
事故等に関する相談	薬物	16
	誤嚥	5
	誤飲	77
	やけど	18
	打撲	107
	溺水	1
	虫刺され	26
	その他	54
小計		304
その他の相談	育児相談	50
	医療機関	20
	薬の相談	113
	その他	14
小計		197
合計		2,154



※1件の相談で、複数の訴えがあるため総数とは一致しない。

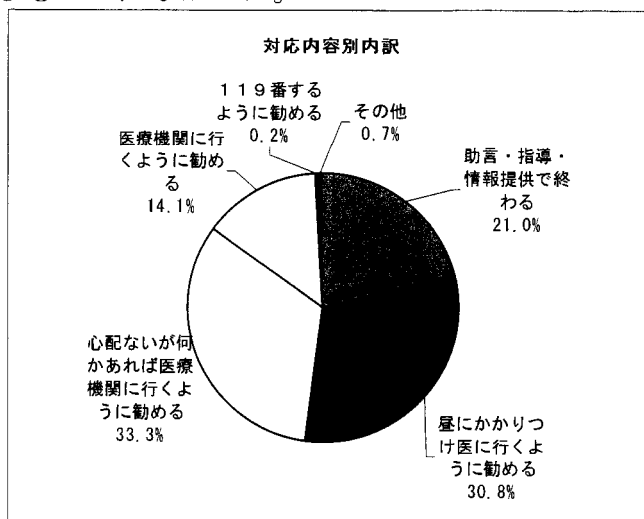
(2) 相談対応者の内訳

・当相談事業では、相談内容等によっては小児科医が対応することが可能な体制をとっているが、ほとんどが看護師である相談員の対応のみで完結（93.8%）しており、相談員が小児科医に照会した後回答したものが6.2%、直接、小児科医が対応したケースは無かった。

(3) 相談への対応の内訳

- ・相談員による相談者への対応の内訳では、すぐ医療機関に行くように勧めたものが306件(14.1%)、119番するように勧めたものが4件(0.2%)であり、8割超が、即時の対応を求められるものではなかった。

内容	6月	7月	8月	9月	10月	合計
助言・指導・情報提供で終わる	83	75	78	77	145	458
昼にかかりつけ医に行くように勧める	115	133	151	151	120	670
心配ないが何かあれば医療機関に行くように勧める	122	165	165	149	123	724
医療機関に行くように勧める	89	66	53	52	46	306
119番するように勧める	1	1	0	0	2	4
その他	3	3	1	2	6	15
合計	413	443	448	431	442	2,177



※1件の相談で複数の対応があり、合計とは一致しない

3. 相談事例について

(1) 助言・指導・情報提供で終わった事例

- ・熱があるが水分は取れている。機嫌はよい。(1歳児)
 - 水分が取れているのであれば経過観察を。
- ・熱があるが入浴は可能か。(3歳児)
 - 体を濡れタオルで拭いたり、手足を洗浄するように。
- ・シャワーで熱いお湯がかかった。(1歳児)
 - 皮膚に異常がなければ、よく冷やすように。

(2) 昼にかかりつけ医に行くように勧めた事例

- ・熱があり不機嫌。水分は取れている。(1歳10ヶ月児)
 - 症状が悪ければ翌日受診を。
- ・数日前から微熱が継続している。(2歳児)
 - 一度、医師の診察を受けるように。
- ・鼻に石が当たり変形しているように見える。(8歳児)
 - 翌日に耳鼻科へ受診を。

(3) 何かあれば医療機関に行くように勧めた事例

- ・ほ乳後嘔吐し、それから泣きやまない。(4ヶ月児)
 - 嘔吐が持続するようであれば受診を。
- ・坐薬を使用したがる熱が下がらない。夕食を嘔吐し尿が黄色い(1歳6ヶ月児)
 - 坐薬を再度使用し、症状が悪ければ受診を。

- ・転倒してたんこぶができています。(2歳児)
→ 嘔吐などの症状があれば受診を。

(4) 医療機関への受診を勧めた事例

○病気に関する相談

- ・声が出ない、痒み、脈拍低下など、急激なアレルギー症状が疑われたもの。(10歳児)
- ・ミルクとともに血液を吐いたもの。(0歳1ヶ月児)
- ・三種混合予防接種後に発熱したもの。(2歳3ヶ月児)
- ・心疾患の既往があり、発熱と嘔吐の症状があったもの。(3歳7ヶ月児)
- ・嘔吐や尿減少、顔色不良など熱中症の疑いがあったもの。(6歳児)

○事故等に関する相談

- ・昼間に前額部を打撲し、夜になり発熱、嘔吐したもの。
- ・ベッドから畳へ転落、授乳後嘔吐したもの。(0歳8ヶ月児)
- ・たばこの火で口唇をやけどしたもの。(2歳11ヶ月児)

(5) 119番するように勧めた事例

- 子どもが歩けない状態であり、かつ県外(福岡県)からの相談であったため、119番するようにアドバイスしたもの。(1歳1ヶ月児・医師照会事例)
- 母親一人で受診が困難であったため、場合によっては119番を、とアドバイスしたもの。(9ヶ月児)

《熊本県小児救急電話相談事業の概要》

1	目的	子どもの急な病気に対する不安の解消を図るとともに、地域の小児救急医療体制の補強と医療機関の機能分化を推進することを目的として、県下全域を対象に、全国同一の短縮番号「# (シャープ) 8000」で、夜間における小児救急に関する相談等を受け付ける
2	開始日時	平成17年6月1日(水) 午後7時
3	設置場所	熊本市医師会立 熊本地域医療センター 内 熊本市本荘5丁目16番10号
4	電話番号	#8000番 (但し、携帯及びダイヤル回線の場合は、096-364-9999)
5	受付日	毎日
6	受付時間	午後7時から午後11時まで
7	相談員	看護師(必要に応じて小児科医)
8	相談内容	子どもの急な病気に関する応急の対応や処置に対する助言 受診可能な医療機関の情報提供 等